

すべての人の「生きる」に向き合う ヘルスケアグループとして、 私たちにできることを社会の すみずみに広げていきます。

創業43年の歴史の中で、当社グループはすべての人の「生きる」に向きあうヘルスケアグループとなるための進化を続けてきました。2020年から続く新型コロナウイルス感染症の影響も今年で4年目となりますが、4つのヘルスケア事業からなる日本調剤グループの事業ポートフォリオは、大きく変化する経営環境の影響を受けながらも着実に成長しています。足元では、政府による医療制度改革や医療版DXの促進、診療報酬改定等を通じて、日本の医療制度は、大きな変革の時期を迎えています。その変化に乗り遅れることなく、業界の先頭を走り続けることができているのは、役職員一人ひとりが「すべての人の『生きる』に向き合う」という使命を果たそうとする強い志を持っているからだと思っています。海外情勢の動向や物価上昇、地球規模の自然災害の増大など不確実性の高まる時代の中でも、患者さまへの医療の提供を止めることはできません。日本調剤グループに所属する薬剤師を中心とする医療従事者が、医療人としての高い使命と専門性を持ち日本の地域医療へ貢献していることをとても誇りに思います。

経営としても大きな変革へチャレンジしています。

昨年4月の新たなグループ理念の公開に続いて、2023年4月には、長期ビジョン2030の見直しを実施することを発表いたしました。2018年の策定時から大きく変化

代表取締役社長 三津原 庸介

1999年日本調剤入社。経営企画部長、子会社取締役、常務取締役、専務取締役を経て、2019年当社代表取締役社長に就任。ICTに深い知見を持ち、電子お薬手帳の開発を主導するなど、会社全体のDXの取り組みを実施。早稲田大学大学院でMBA取得、ジョンズ・ホプキンス大学公衆衛生大学院で修士号を取得するなど、経営分野と医療分野の両方の視座を持つ。

する医療行政や経営環境を踏まえた新しい経営戦略の策定が必要であると感じています。加えて、プライム市場への移行や東証の市場改革といった上場会社を取り巻く社会的要請も拡大していることから、ステークホルダーの期待に応えるために、コーポレートガバナンスや財務戦略、サステナビリティ経営等も含めた総合的なビジョンを検討しています。また、長期ビジョン達成に向けた中期的な経営戦略も合わせて公開を行い、長期ビジョンとその達成に向けた道筋をお示しすることで投資家さま・株主さまのご期待に応えていく所存です。

